

あなたの心にジャストミート5月7日メッセージ
神様の無茶振り(マルコ6:34-44)

神様のみことばを聞くことができるのは、信者の特権であり祝福です。聞いても自分のものにならず、自分のみことばに距離があり、実らず、はばたくべきなのに、翼が折られるのはなぜでしょうか。神様のみことばが無茶振りに聞こえることがあります。神様には無茶振りはありません。私たちが自分の基準で見るので、そのように聞こえるのです。私たちの考えを修正して、みことばが実る勝利の主人公として歩みましょう。どうすれば良いのでしょうか。

1.神様の無茶振りは、信者を癒す配慮である

1) “あなたがたであげなさい。“二百デナリものパンを?”

今日の聖書箇所では、イエス様が弟子たちに、あなたがたで一万人以上の人々にパンをあげなさいと言われます。二百デナリとは、いまで言うと100万円くらいですが、弟子たちは、そんなお金もなく、12人でできないと思っていました。イエス様のみことばに対して、「冗談言わないでください」と言いたかったでしょう。しかし、イエス様はパン5つ、魚2匹で、男だけで5000人を食べさせ、余ったのです。

2) 自分の限界、肉の限界、世の限界
-奴隷の習性

今まで神様なしで、自分だけで生きてきたので、自分の限界に捕らわれ、霊の世界に対して無知なので肉にだけこだわり、肉の限界にぶつかり、永遠のことを知らず世の限界にぶつかっていたのです。そのような限界にぶつかるのが奴隷の習性です。それは、生まれたときからの習性なのですが、イエス様の無茶振りに聞こえることばで、その習性が現れたのです。

3) 創世記17:17、出エジプト記3:11、14:11、使徒1:6

アブラハムは100歳で子どもが生まれると言われたとき、冗談だと思って笑いました。モーセは80歳で落ち込んでいたときに、パロのところに行きなさいと言われて、無茶ですと言いました。過越の血によって出エジプトしたイスラエルの民は、紅海の前で、後ろからエジプトの兵士が追いかけて来るのを見て、無茶だと反応して、感情を爆発させました。世界福音化のために用いられると言われたことばに、初代教会の弟子たちは、いまこそ国が復興されるのかと世界福音化とは遠い考えを言いました。みことばを聞いても、距離が縮まらなかったのです。それは、自分の中に癒やされるべきものがあり、サタンがやぐらを作ってすみついているということの現れです。

4) 常識、宗教、倫理、律法…

また、常識や宗教、倫理、律法を持って見るので、神様のみことばが無茶振りに聞こえます。自分の中にある枠に気づいて認めましょう。自分の中に癒やされるべき不信仰のやぐらがあることの裏返しだと認めましょう。

2.神様の無茶振りは、信者の信仰告白を待つラブコールである

神様には、無茶振りはありません。みことばに距離があって、遠く思えるのは、自分の内が病んでいて、神様のいない習性によって枠ができて、やぐらになっているからです。

1) 旧約-Only キリスト、絶対キリスト
-エゼキエル37:3、ヘブル11:19

無茶振りに聞こえるのは、神様が信仰告白を待っておられるラブコールです。旧約ではonly キリスト、絶対キリストゆえ信じると告白することを待っておられました。エゼキエルに、骨は生きるかと問われたとき、「主よ、あなたがご存じます」と答えたのは、キリスト only、女の子孫 only、絶対キリストという

告白です。アブラハムがイサクをささげるように言われたのも、信仰告白を待っておられたのです。

新約-イエスはキリスト

-ルカ1:38、1コリント15:3-4

新約では、イエスがキリストという信仰告白のためでした。マリヤに御使いが語ったとき「おことばどおりになりますように」とマリヤが言いました。それが、キリスト only、絶対キリストです。聖書の示すとおりに罪のために死なれ、よみがえられた、イエスがキリストです。

2) 弟子たちに、アブラハムに、イスラエルの民に

神様は初代教会の弟子たちが、イエスはキリストという信仰告白をすることを待っておられたのです。みことばを語られたイエスがキリストなら、話は違いますが、それが信仰の神髄です。悩みがあっても、信仰告白することを神様は待っておられます。すでに祝福は与えられています。どんなに自分が弱く、土の器でも、イエスはキリストです。精神的に病んでいても、イエスはキリストであることは間違いないので、すべての問題はすでに終わりました。その信仰告白によって、神様は内側に光を照らし、癒やそうとされています。自分のためのみことばだと受け止めましょう。

3) 使徒1:7-8、14

イエスはキリストという信仰告白をして、

1部-マルコ6:34-44 神様の無茶振り

なるほど/ 神様のみことばが無茶振りに聞こえるのは、私の中に癒すべきところを表わす配慮であり、私の真の信仰告白を待つ神様のラブコールである。

ならば/ 現場のやぐらとして召されたというみことばの前に立って、真の癒しを祈り、真の信仰告の上に立って、御座の祝福を祈り、みことばと私との距離を亡くそう。

2部 -1ペテロ2:9 やぐらの信者

なるほど/ 神様のものを所有してるプラットフォームが、現場を実際に見る見張り台が、地の果てを見るアンテナが建てられるとき、世を生かすやぐらとして立てる。

ならば/ この契約を握り、御座の祝福が臨むように祈り、やぐらの人生を歩いていこう。

神様のラブコールに応答しましょう。いままでの考え方、見方、すべて下ろして、1つにこだわります。ただ聖霊が臨まれるなら、すべてを越えてイエスの証人となります。みことばは成就します。礼拝に期待して来るようにしましょう。only 聖霊、御座の祝福、光が臨むことだけにこだわり、祈りに専念しましょう。

4) 神のみことばは無茶振りじゃないことをご自身で見せられる。

神様は100歳のアブラハムにイサクを与え、ヨセフは世界宣教をするように、イスラエルの民は紅海を乾いた地のように歩いて渡るようにされ、イエス様は死者からよみがえられ、乞食のような初代教会はローマ福音化して、その福音は私たちにまで届いていません。神様は、みことばをご自身で成し遂げてくださいます。癒やしと信仰告白にフォーカスを合わせましょう。

「家庭や家系、現場を生かすやぐらとして召され、237、癒し、サミットの主人公である。」というみことばを心を開いて素直に受けよう。

それが無茶振りに聞こえる時は、不信仰のやぐらが砕かれる癒しを祈りましょう。そして、「イエスはキリスト」の信仰告白に立って、みことばをありのまま握って、自分に御座の祝福が臨み、神の国が臨むのを祈り、みことばの成就を見るように祈ります。